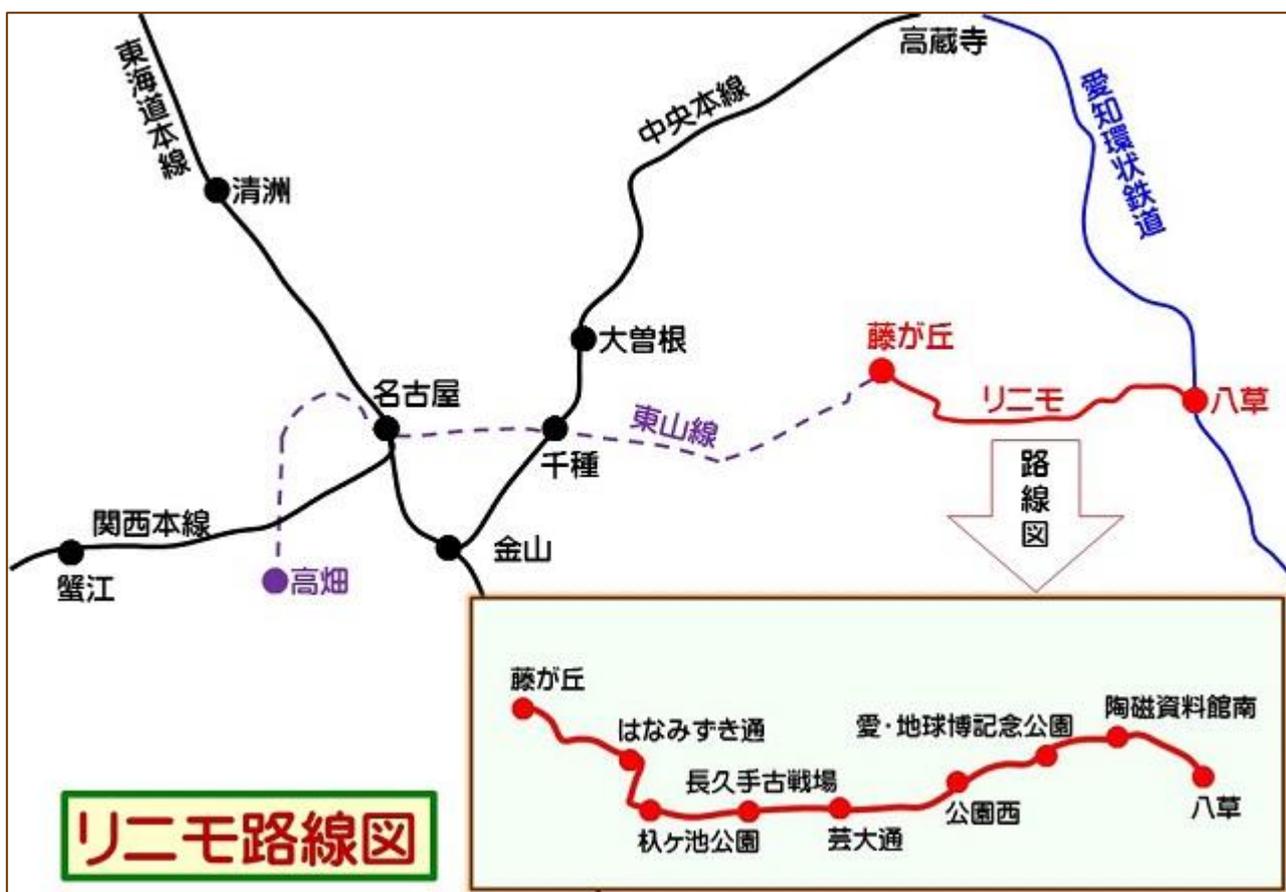


～車窓を楽しむ鉄道の旅～
リニアモーターカー体験の旅

名古屋に旅をする機会が増えて、その度に地図を眺めることが多くなった。数年前に鉄道路線図で見つけた「リニモ」と書かれた路線。地下鉄東山線の終点藤が丘から東の山に向かって走っているが、2005年に開かれた愛・地球博覧会（通称：愛知万博）の時に、都心と会場を結ぶ交通機関としてできたリニアモーターカーによる新交通システム。

リニア中央新幹線の工事への着手が話題となっている昨今、ひとつ時代を先取りした新交通を一度味わってみることにした。



平成 29 年 4 月 21 日 天気＝曇時々晴
通勤ラッシュの時間を過ぎた頃合いを見計らって名古屋駅へ。午後の新幹線で帰京の予定なのでコインロッカーにカバンを預けて、カメラを入れたザックを肩にかけて地下街へ。通勤ラッシュはもう過ぎていると思いきや、地下街はまだまだ人の波。名古屋の地下街は意外なことにバリアフリー化されていない場所が多い。歩いている人もやけに早足で他所から来た者や足腰の不自由な人をはじき飛ばすような人の流れがある上に、東京以上に「歩きスマホ」が多く危険がうようよしている。

東山線は名古屋駅から錦通の下を東へ一直線、覚王山から広小路通に入り名城線の環のど真ん中を突き抜けて本山へ出て、郊外の藤が丘まで約 30 分。終点の藤が丘駅は高架の駅で、「リニモ」と書いた案内に従って進んでいくと地上に降り、東側から地下に入った。終点の八草迄の往復キップを買って改札口に入ると、ホームに溢れんばかりに並ぶ学生が目に入ってきた。



無人運転のこぢんまりした車両は、東京のゆりかもめと同じような大きさ。リニアモーターカーならではの軌道上の設備が見られるのではないかと、電車が入ってくる前に軌道を眺めて見たが、特別なものは何も見当たらなかった。

予想通り静かに**藤が丘**駅を発車、しばらくは住宅街の地下を走るので何も見えない。地上に出てホッとしていると**はなみずき通**という味気ない名前の駅に入った。マンション、一戸建て様々な住宅が建ち並ぶ中を右に直角に曲がり南南西に向かうと今度は左に直角にカーブして**杵ヶ池公園**（いりがいけこうえん）という意味ありげな名前の駅に到着。駅の南西に大きな池と緑地公園が見えるが、これが駅名たる杵ヶ池公園。杵ヶ池は農業用水用の池のようだ。名古屋周辺には「杵（いり）」が付く地名が多いが、谷が入り組んだ所に付く「入り（いり）」と同じような意味を持つらしい。

杵ヶ池公園を出るとすぐ先に次の駅が見える。**長久手古戦場**はその名の通りで、駅の北側に古戦場公園が見える。天正10年織田・徳川陣営は武田勝頼を破り、同年織田信長は本能寺の変で明智光秀に討たれる。この後、織田の家臣羽柴秀吉が明智光秀を討ち、三河の徳川家康は織田の持つ甲斐・信濃も手中に。そして天正12年の羽柴秀吉と織田・徳川陣営とが戦う小牧・長久手の戦い。リニモは高いところを走るので付近の景色がよく見える。平野の東端の山が入り組むような所でどのような戦いが行われたのだろうかと思像してみるだけでも面白い。とは言っても、この駅から見える景色は、駅前にドーンと居座るロイヤルホームセンターとイオンショッピングモールばかりが目立ち、歴史はどこかへ追いやられているような風景。

車窓に豊田の研究所や博物館が飛び込んでくる。そうかトヨタの町なのだ。

古戦場を出るとわずかな距離で、名古屋瀬戸自動車道の長久手ICの目の前に**芸大通**駅がある。ICを挟んで南側に愛知県立芸術大学、栄徳高校、農業試験場などが並ぶ。芸大の学生らしい一群が降りて行った。だっ広い芸大のキャンパスの北側をかするように東へ向かい、やや北東に向きを変えた所に**公園西**駅がある。愛・地球博覧会会場の西側に位置し、なだらかに続く丘陵地帯を丸裸にして人工的なものを配した「博覧会」という名の暴挙の跡が窺える。人影は疎らで、博覧会が終わってから12年の年月を経た今、何か首を傾げたくなるような景色。

広大な博覧会跡地に沿って北東に向かうとすぐに**愛・地球博記念公園**。駅の北側に愛知県立大学があるのでここでもまた学生の一群が下車して、車内はかなり空席が目立ってきた。窓から見た限りでは南側の博覧会跡地（公園）に向かう人はいなかった。

陶磁資料館南駅の住所は豊田市八草町だが、駅前をわずかに北に進むと瀬戸市の最南端になる。昭和53年に愛知県政100年記念事業として陶磁資料館ができたが、創立35年を迎えたのを機に平成25年に愛知県陶磁美術館と改称して再出発した。駅名だけが昔のままになっているという不可思議。駅の隣が愛知県立大学だからだろうか、学生らしいグループが降りていった。

八草（やくさ）、リニモの終着駅。眼下に愛知環状鉄道の八草駅が見える。（右画像：愛知環状鉄道線）

愛知環状鉄道は、東海道線の岡崎から名古屋の都市圏を大きく迂回して大回りして走り、中央本線の高蔵寺までを結んでいる45.3Kmの路線。国鉄時代に岡崎・多治見間を結ぶ路線（岡多線）として工事が始まったが、岡崎・新豊田間の開通までで国鉄分割民営化に入ってしまった。第三セクターの愛知環状鉄道として再スタートし、後に高蔵寺までの延伸となった。地図を眺めて見ると、高蔵寺から適当に延長線を引けば小牧を経て尾張一宮に繋がりそうに見えるので、おそらくバブルの頃にはこんなアイデアもあっただろうと思像できる。そして、中部国際空港の出現により小牧へのアクセスの強化策は不要に……というような筋書きだったのだろうか。

残りの乗客は殆どが学生で、愛知工業大学への坂道を上って行った。八草はガラスの原材料である珪砂を採掘する鉱山があっ



た所らしい。駅前には国道 155 号線（豊田・瀬戸間）と猿投（さなげ）グリーンロードと称する自動車道が交差し、その間を愛知環状鉄道が通っているだけで他にはコンビニエンスストアが一軒あるだけの殺風景な所だ。長く居ることも難しそうな場所なので、30 分ほど付近を散策した後、往路を戻った。（左画像：復路はガラガラ）



リニモは鉄道技術としては最先端のリニヤモーターカーでしかも無人運転のシステム。2005 年の万博の時に実験システム的な意味合いも含めて実現させた名古屋経済圏の技術力と愛知県・名古屋市等の行政の先進性の賜物であろう。電源部や主要機能部は二重化されていて有事の対応策が配慮されているよう

だ。電源電圧は直流 1500V、浮上高は 6mm、時速 100Km まで可能と説明資料に書いてあった。

詳細情報は愛知高速交通株式会社のホームページに説明が載っている。<http://www.linimo.jp/>

以上

| Linimo 運賃表 Fare Table | | 藤が丘 Fujigaoka | はなみずき通 Hanamizuki-dori | 杖ヶ池公園 Itinake Koen | 長久手古戦場 Nagakute Kosenjo (長久手古戦場公園と長久手古戦場公園) | 芸大通 Geidai-dori (芸芸館前) | 公園西 Koen Nishi | 愛地球博記念公園 Ai - Chiyuhaku Kinan Koen (愛地球博記念公園) | 陶磁資料館南 Tojichiyokan Minami | 八草 Yakusa (新大塚公園) | 当 駅 You are here |
|-----------------------------|-----|------------------|---------------------------|-----------------------|---|------------------------------|-------------------|---|-------------------------------|-------------------------|---------------------|
| 370 | 350 | 350 | 290 | 290 | 230 | 170 | 170 | | | | |
| 190 | 180 | 180 | 150 | 150 | 120 | 90 | 90 | | | | |

下段は小児運賃です。
Below is Children's Fare.